

大雪山国立公園連絡協議会 登山道維持管理部会

登山道補修技術懇談会【第1回】議事概要

■日 時: 令和3年4月23日(金)13:00~15:00

■会 場: 上川町役場大会議室 ※希望者、遠隔地の方は web 会議システムにより参加

■出席者: 47 団体等 79 名

■概 要

1. 開会

2. 議事

議事1. 大雪山国立公園における登山道整備技術指針とその運用(登山道維持管理作業実施手順マニュアルと登山道維持管理データベース)の紹介

⇒事務局より資料にそって説明。

【質疑応答】

※前段、北海道山岳整備・(一社)大雪山山守隊 岡崎氏より・顔合わせのため、Web 参加者のビデオをオンにするよう提案があったため採用し、Web 参加者のビデオをオン。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・ 大雪山の取組を他地域の方にも共有するという趣旨の本懇談会だが、以前やっていた事後検証作業はどこでやるのか、懇談会との関係はどのように整理されているのか。

■事務局

- ・ 今回は初の試みとして検討会的な場を懇談会として全国的に参加者の範囲を広げた形になっている。全ての検証が難しければ今年度の検討会で昨年度の検討も含めて検証をす
ると考える。今後の開催については今日の結果などを見ながら考えたい。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・ 現地関係者で検証し合うのと、結果を他の地域の方と共有するのとでは目的が違うので、そこを整理されて考えられた方がいいのではないか。

■事務局

- ・ 昨年度の補修案件について関係する皆様でしっかりと検証をするべきだと思うので、仰った趣旨で今年度以降も進めていきたい。

■東北地方環境事務所 田中氏

- ・ 大雪山グレードはあくまで管理のためのものであって利用者向けのレベル分けはしていないという理解でよいか。

■事務局

- ・ 利用者にグレードを表示した地図などを配布したり、ビジターセンターなどで利用体験レベルとしてグレードの紹介をしており、管理だけのものではない。

議事2. 令和3年度登山道維持管理作業実施手順マニュアル運用方針について

⇒事務局より資料にそって説明。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・ 資料3 ⑤登山道整備技術指針の改訂に向けた知見の蓄積 登山道維持管理データベースに関して説明してほしい。

■事務局

- ・ 登山道整備前後の写真は残していたが、その後の経過が分かるものがなかった。整備結果について検証できない状況だったため、令和2年度からは記録を蓄積し検証する材料にする。植生の移り変わりも記録していきたい。徐々に改良しながらやっていきたい。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・ 善し悪しのケーススタディを蓄積し、検討する判断材料になるという趣旨はいいが、それがデータベースなのか。どこまで載せるのか整理が必要。植生変化を記録するのも大事、野営指定地についても載せられるようなシステムにしてほしいし、協力させてほしい。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・ 令和2年度以前に行った補修について前後の写真データがあれば載せてもらえるか。

■事務局

- ・ 徐々に過去の記録も載せていく予定。

議事3. 令和2年度登山道補修結果の技術的検討について

⇒事務局より資料にそって説明。

■羽黒自然保護官事務所 澤野氏

- ・ 登山道補修記録者は、記録日に現場にいたのか、作業日にも現場にいたのか。細かく情報がまとめられているので、どのようにつくられたのか。

- ・ 記録には課題が書かれているが、実施主体の意見を踏まえて作成されたのか。例えば、強度不安に対しての課題については、他に手段がなく進めたものなのか。
- ・ 一緒に作業して書いてだけでなく、別日に現地で気付いたことを課題に盛り込み補修記録を作成されたということか。

■事務局

- ・ 記録日は作成した日、この3案件について、作業日は実施者から教えてもらったもの。どういうポイントに気を付けて作業したか聞いている。
- ・ 記録時に気付いたことと、後から現場写真を見て気付いたことを上げているものもある。
- ・ 資料2-2については別日に現地で気付いたことを課題に盛り込み補修記録を作成。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・ 資料2-1を担当した。次の課題として流れ落ちる水の経路を考慮した施工が必要と紹介いただいたが、忠鉢さんと現場で検討した。今年、案件登録をして実施する。
- ・ 他の場所で導流溝から外に流したとき、その先で侵食が起きている問題がある。いろいろ検討して慎重に進めているところもあると思う。

■山形大学農学部 菊地氏

- ・ 登山道補修記録が登山道維持管理データベースなのか。
- ・ 事後検証はこの記録用紙を見ながら行うということか。

■事務局

- ・ 補修記録が令和2年度では10件くらいあり、これらが大雪山国立公園の登山道の地図に記録していくというもの。(登山道維持管理データベースのウェブページを共有。路線を選び、作業箇所が附番により表示され、選択するとPDFで記録閲覧できることなどを説明。)
- ・ 事後検証は記録用紙を見ながらできればよいと考えている。

■山形大学農学部 菊池氏

- ・ 紙媒体で写真や文章だけでの検証はなかなか難しいのではないかと。動画を利用するのが現場のイメージが伝わるように思う。
- ・ 事後検証される方が現場に行くことは難しいので、できる限り現場のイメージを伝えるには動画が有効であろうと意見させてもらった。

■事務局

- ・ 今後は動画を積極的に使って現場の状況がよく分かるような形で、検証の材料になりうる資料として蓄積していきたい。
- ・ 令和2年度に行われた施工案件の数は、90件ぐらい。そこから事後検証が必要なものと

して 3 つの事例を紹介した。全てを同じように検証するのは困難。検証すべき案件を抽出し、検証できる資料を確保して、メリハリを付けて検証作業を進めていきたい。

(備考: 全施工案件 90 件のうち、補修記録の事前検討及び事後検討案件は 49 件、うち施工できなかった件数は 4 件)

■山形大学農学部 菊地氏

- ・ 補修作業をされる方々が動画を撮影するという事は有り得るか。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・ かなり撮っている。また写真と動画、タイムラプスも撮っている。真新しい施工でなければ出していないというところがある。

■雲仙自然保護官事務所 堀松氏

- ・ 藤さんが撮った動画やその他の動画の保存先を紹介していただくことはできるか。

■事務局

- ・ 大雪山国立公園連絡協議会の YouTube へ保存を考えるが、今年度からでも実施したい。

議事4. 各地域における登山道補修技術の検討と、技術向上のための地域間交流・情報交換のあり方について

■北海道山岳整備、(一社)大雪山・山守隊 岡崎

- ・ 今回の登山道技術懇談会は、登山道整備の手順を作り、多くの方が登山道整備をやりやすくして成果を事後検証しながら全国の方々に判断してもらいたいと聞いていたが、補修は生態系、植生など多くの基準があり相互的な判断を要する。
- ・ 既存の制約上行動に移れないことが多々ある。我々ではルールを変えることはできないが、行政がルールを変えられると思うので、縛りを見直すルールを考えてほしい。行政も民間も利用者のために考えている国立公園を守る歯車の一つだと思うが歯車が噛み合っていない限り今の国立公園の管理というのはこのまま荒廃が加速している状況から脱却できない。
- ・ 今回、大雪山地域だけでなく色々な地域の方々と話ができるのは非常にありがたく、これから全国の方と横の繋がりを作っていきたいと考えている。

■北海道大学大学院地球環境科学研究院 渡辺氏

- ・ 何故、大連協が主催でやらないといけないのか。環境省本体がやるべきもので、環境省がするからこそ全国の方たちもみんなお互いが真剣になってやれるはず。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・ 単純に、今日は他の場所の施行事例が見たい。

■山形大学農学部 菊池氏

- ・ 私もどうい立ち位置でここにいたらよいか困っていた。大雪山の事例を紹介いただいて勉強になったが、我々外部の人間として、どういう意見を言う場なのかわからなかった。全国の繋がりを作るのは同意見。本省が音頭を取り、このような場を設けるべきと思う。

■事務局

- ・ 今回、登山道管理では、先進的に見られている大雪山国立公園からこのような機会を持ちかけたが、全国それぞれ課題があり、必ずしも共有されてはいない。本懇談会において紹介した補修事例は3つで、全体を網羅したものではない。こちらとしては、大雪山国立公園連絡協議会という全体をまとめる枠組みの中、登山道維持管理部会が立ち上がったこと、技術指針をどう有効活用していけるのかという課題に対して、マニュアルとデータベースの構築をツールとして見いだそうとしていることを紹介したかった。また、全国で課題をお持ちの現場を含めて、有効的・建設的な意見があればいただきたいと思った。同様の課題を抱えている人たちが連携していくのは大事であり、同じ現場を抱える者同士、コミュニケーションが少しでも取りやすくなる機会になればと思う。
- ・ ルールや縛りという意見については、国立公園を利用するための事業として事業執行するのが1つの考え方であり、一から許認可の手続きを踏まないと作業が進まないではなく、公園事業をしっかりと基本的なものとして認識し、管理体制を構築していくことが現実的な進め方だと思う。事業執行は全路線できるものでもなく、国・都道府県・市町村も含め、地域ごとに話し合っていく必要がある。

■北海道大学大学院農学研究院 愛甲氏

- ・ 内部で検証すべきことは別の場で実施していくことお願いしたい。全国から集まっていたいるので、シェアすべきことは何だろうと考えたとき、こういう手続きを大雪山はやっているというのを共有し、これについてどう思うかを聞くべきであり、技術者として実際の施工者にマニュアルに沿ってデータベースを取るのはどう思うかについて意見を聞きたい。

■事務局

- ・ 今回マニュアルに沿って実施していただいた施工者にコメントをいただく。

■NPO 法人かむい 濱田氏

- ・ 昨年、赤岳第三雪渓部分に木柵階段を作った。200本くらいの丸太の荷揚げはほぼボランティアの方が現地まで上げてくれた。途中で水切りを何カ所が作成したが、今年は水切り箇所の経過観察を行う。

- ・ 昨年、ササ刈りを重点的にやっていたので、マニュアルについてのやりづらは特に感じなかった。施工中に動画は撮っているので提出する書類には動画も添付して提出したい。

■Asahidake Trail Keeper 藤氏

- ・ 資料 2-1 の施工は、天女が原湿原の木道を補助金で整備し、木道整備のほか最低限の施工を行った。その前後でも排水等が必要な所があるので、今年は排水メインの施工を実施したいが、結構そのようなことをやっていくと場所が延び、それが他の場所にも影響が出たりするのでそこは慎重にやっていきたい。
- ・ ここに関しては動画は撮影してなかったので、基本的な記録に取り入れるというのであれば撮影していく。

■北海道山岳整備、(一社)大雪山・山守隊 岡崎

- ・ 施工前後の計画、設計図、周辺植生の記録を施工者でなくて環境省がやってくれるようになったのは進歩であり、非常にありがたい。ただ、登山道整備は気付いた時にやるのが多々あるので、逐一報告後の実施は難しかったり、整備の程度は、軽微なのかどうかの判断が分かれ、整備の質の判断も難しく、記録のされ方が変わる。動画がベースの記録になるなら、まとめ方も変わっていくべきだと思うし、協力していきたい。全国でもこういう事例があるので教えてもらいたい。

■小笠原村役場 川口氏

- ・ 小笠原はほとんどが国有林地域になっており、村事業で遊歩道整備を行っている。村役場だけではできないので、国有林、環境省、地元ガイド、都レンジャー、多くの方が関わっている。一定の時期の整備だが、台風や濁水、長雨によって崩れていて、いち早く気付く地元のガイドから村に情報をもらって補修している。多くの方が関わり発信をしており音頭を取るのが大事。

■阿蘇くじゅう国立公園管理事務所 山下氏

- ・ 去年 12 月登山道整備を始めたばかり。WakuWakuOFFICE あそ Be 隊は登山道の課題に問題意識をもたれていた。淡々とした木階段整備では豪雨で荒廃化していた。それを違う形で取り組み始めたばかりなので今日の懇談会は情報共有の仕組みや地域の人との連携など、他地域の話が聞ければと期待を持って参加した。課題と事例がマッチングするようなものだと自分たちの地域では有意義だと思った。
- ・ 実施にあたり、現場間でコミュニケーションを取り合うとフットワークが軽くなると思う。

■WakuWakuOFFICE あそ Be 隊 薄井氏

- ・ 行政は縦割りで、お互い共有できてないということを私も感じるがあったので、先ほどのご意見の通りシェアするのは大事。阿蘇は民間所有地で管理が難しい。登山道に関し

でも環境省、県、市町村、農地組合、民間など様々で、その中で協議会はあるが、それぞれの立場が違うので、安全なルートを管理するのは難しい。どんな方法でルート整備するのか、土木工を入れるのか、近自然工法を入れるのか、全国で草の根シェアするのは大事。

■上川総合振興局環境生活課 福井氏

- ・ 以前、大雪山の登山道の大部分は北海道が事業執行していたが、現場の皆さんの具体的補修意見に対し事業執行者としての意見を求められていた。皆さんと議論しながら事後評価していく仕組みになったのは事業執行区間が多い北海道としては非常にありがたい。色々課題はあり、今後も改善していくと思うが、仕組みが良くなっていけばいい。

■屋久島自然保護官事務所 市川氏

- ・ 先月、岡崎さんに来てもらって地元の方と近自然工法の技術を学んでいる段階。大雪山のようにデータを蓄積はない状況。地元で根付いた形で近自然工法の形で続けていけたらいいと思っている。

■屋久島山岳ガイド連盟 渡邊氏

- ・ 私たちガイドは現場で登山道整備を行っているが、10年位前から環境省、鹿児島県、屋久島町から委託事業を受けて登山道整備や山小屋やトイレ掃除をしている。それぞれ限られた予算の中でやれることは限られていると思うので、現場のことをよくわかっている団体のガイド組織と連携して整備を行っていくのがいいと思う。

■ウトロ自然保護官事務所 山田氏

- ・ 知床でも大雪山の話聞いて近自然工法をはじめて教えてもらった。今後はガイド事業者やフィールドを使う方が自然環境保全に関心を持ってもらえるようにイベントを通して参加型の近自然工法の登山道整備を試行的に実施しようと思っている。

5、閉会

■大雪山国立公園管理事務所 広野

- ・ 開催の趣旨が皆様によく伝わっていなかったということがあり、お詫びを申し上げる。
- ・ 各年度の補修案件についてしっかり検討することが明らか。今後も技術検証の場は設けたい。マニュアル手順、データベースをどう作るかは試行をはじめたばかりで、今後徐々に改善していく。補修案件をどう扱って活用できるか引き続いて検討していきたい。
- ・ 今日、様々な立場の方にご参画いただいているが、技術の検討や手順をどうしていくかは専門家に意見を伺うところ、現場を最もよく御存知の方には別の視点で御意見を伺う。様々な関わり方があると思うので、検討会なのか懇談会なのかは今後も進めながら最も良いタイミングで趣旨を明確化した上で開催を検討していきたい。

今日は横の繋がりということで、今後多くの立場の方と繋がり情報交換、意見交換を活発化させていければ、全国の登山道がなお良くなっていくと思う。